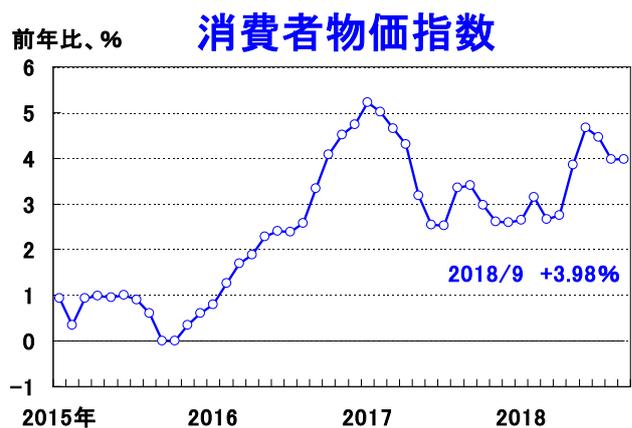
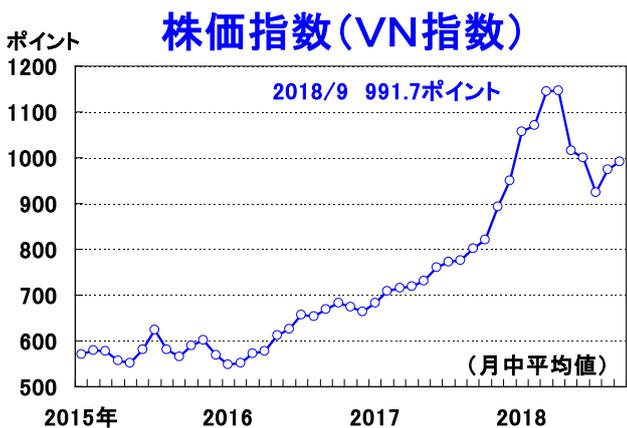
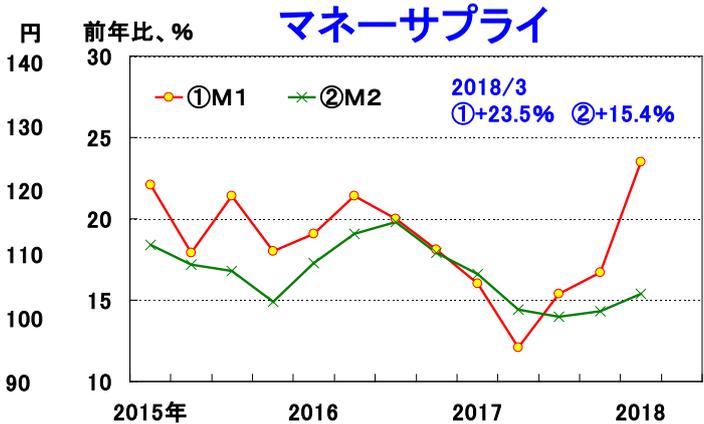
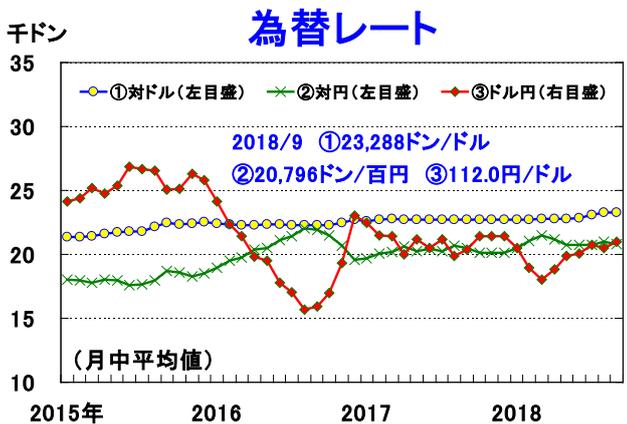
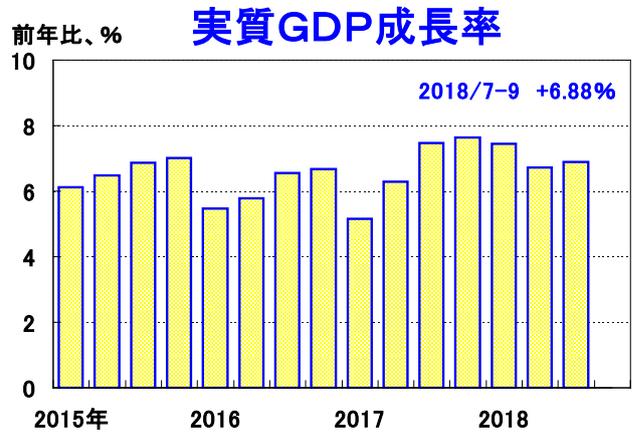
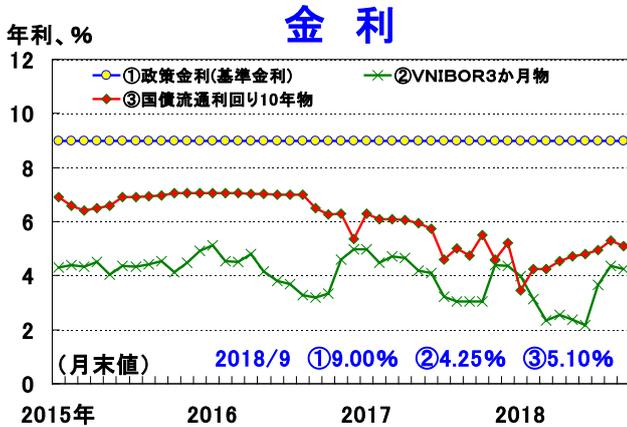


グラフで見るベトナム経済 2018年10月号(No. 105)

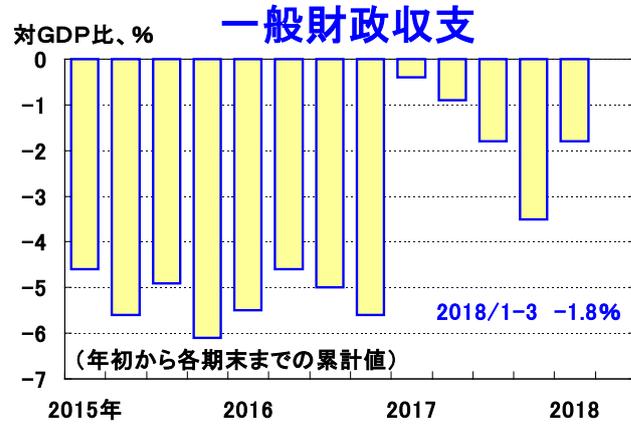
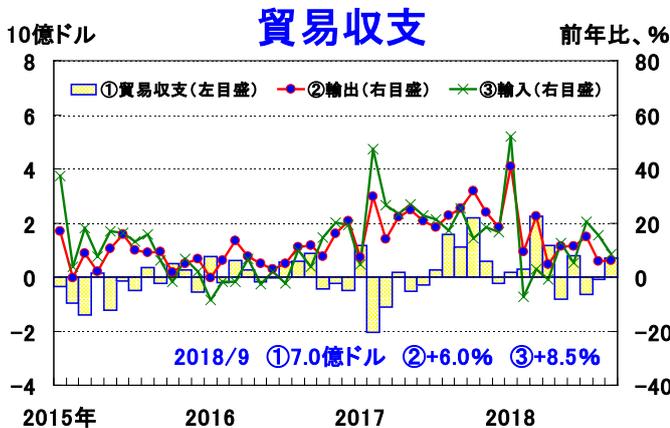
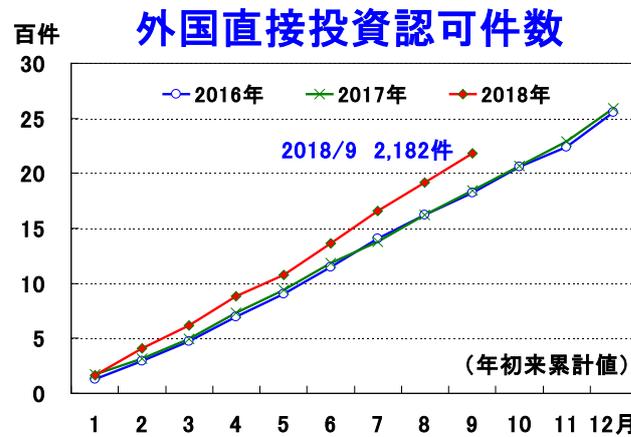
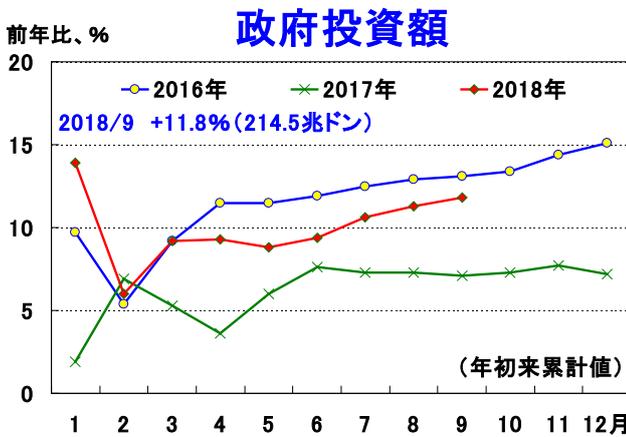
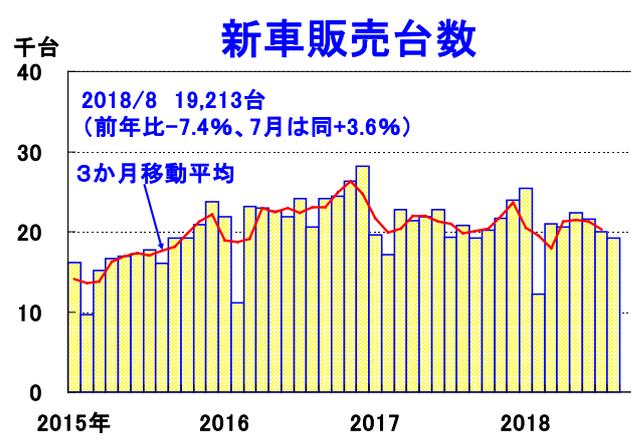
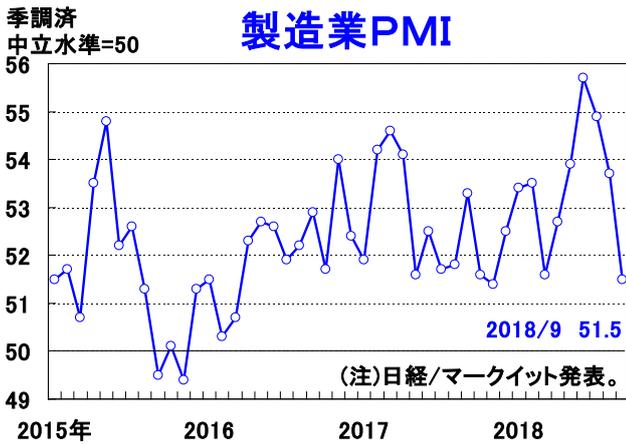
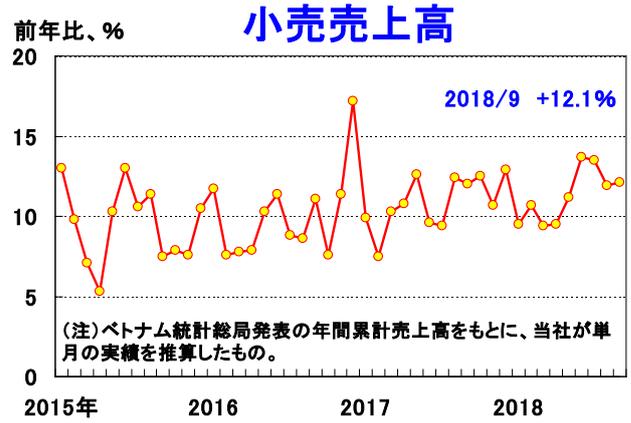
2018年7～9月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+6.88%(推定値、前期は同+6.73%)と、個人消費の加速などにより、成長率が3四半期ぶりに高まった。月次指標をみると、企業部門はやや弱含みの動きとなった。9月の輸出は前年比+6.0%(前月は同+5.7%)と伸び悩んだほか、同月の鉱工業生産も同+9.1%(前月は同+13.4%)と2018年5月以来の低い伸びとなった。また9月の製造業PMI(中立水準は50)は51.5(前月は53.7)と、「生産」や「新規受注」の低下などを受けて、2017年11月以来の低水準にとどまっている。



【今月のトピック:ベトナムにとってチャンスのある側面もある米中貿易紛争】 米中貿易紛争は世界経済を減速させる要因となるものの、ベトナムにとってプラスとなる部分もある。具体的には、米国市場で競合関係にある中国製品に代わって、ベトナム製の消費財等の輸出が伸びる可能性がある。加えて、中国から生産拠点を他地域にシフトする動きが加速することが予想され、米国との外交関係が良好なベトナムが投資先として選ばれることも考えられる。9月に、グエン・スアン・フック首相は米中貿易紛争によってベトナムは課題とチャンス双方に直面するが、チャンスの方が多いという趣旨の発言をしている。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。